

四季だより ~ 2021 秋 ~



本厚木メディカルクリニック
2021年10月9日

院長の金重です。

新型コロナウイルスに対するワクチン接種がかなり進みましたが、最近ではブレイクスルー感染も話題に上がっており、ワクチン接種を済ませても感染予防は怠らずに励行することが肝心です。新規患者数も大幅に減少し、10月1日から緊急事態宣言も解除されることになりました。しかし医療現場のひっ迫は続いており、自宅療養中の患者さんの重症化を食い止めることが至急求められています。最近では新たにいくつかの新型コロナ治療薬が使用出来るようになり、今回はこの代表的な治療について概説したいと思います。

1. 抗体カクテル療法

最近よくマスコミでも、この治療の有効性が伝えられています。アメリカのトランプ前大統領がこの薬剤を開発当初に投与されたことも報道されています。通常ワクチンを接種するとウイルスに対する抗体が産生され発病予防につながります。しかしそれには接種後2週間近く待たなければなりません。抗体カクテル療法は、カシリビマブとイムデビマブという2種類の抗体をミックスして静脈注射をすることで、短時間で効果が表れます。発症から7日以内の軽症から中等症(酸素投与を行う前)の患者さんが対象になります。投与は一回のみで翌日には70%以上の患者さんが解熱し、呼吸が楽になるなど劇的な改善が見られています。現在自宅療養中の患者さんにも訪問診療で投与出来るようになり、病床のひっ迫改善につながる事が期待されます。

2. デキサメサゾン療法

これは半世紀以上使用されている抗炎症薬のステロイドの一種です。リウマチや膠原病などの自己免疫疾患に広く使用されています。この薬は主にコロナ患者の中等度から重症度の患者さんに使用されます。それ故入院患者さんが投与対象になることが多いです。この薬剤は炎症を抑えることがその主作用でウイルスを殺す作用はありません。しかし人工呼吸器や酸素投与している入院患者さんの改善が多く報告されております。

3. レムデシビル

元来エボラ出血熱の特効薬として開発され、中国武漢でコロナウイルスが蔓延した際にその治療薬として見直されました。しかし症状の進行はある程度遅らせるものの、死亡率には変化がないことが報告され有用性は半分薄れました。

4. 新しい経口薬の登場

日本の塩野義製薬が新しい飲み薬タイプの治療薬が最終治験に入ったことが9月29日に発表されました。この薬剤は発症初期に一日1回5日間内服する薬剤で、世界でも注目されている経口薬剤(飲み薬)です。新型コロナウイルスの治療薬の選択肢が増えることで、ワクチン投与と相まって治療の大きな二本柱が出来ることで、今後の治療研究に期待したいと思います。



「シックデイ」とは 外来看護師 大橋美菜

糖尿病の方が発熱や胃腸炎などで体調が悪くなり食事が摂れなくなった状態の事を「シックデイ(病気の日)」と呼びます。シックデイでは、病気のストレスによりインスリンの効きが悪くなる為、普段より血糖値が上がりやすくなります。一方で食事が摂れないにも関わらず、いつも通りに服薬や注射をしてしまうと低血糖を起こす事があります。家庭での対応「シックデイ・ルール」をもう一度見直す機会としていただき、この困難な時期を乗り切りましょう。



—シックデイ・ルール—

- ◆安静と保温に努め、必要に応じて主治医と連絡をとる。
- ◆脱水を防ぐ為に水分を十分に補給する。
- ◆消化の良い炭水化物を摂り、絶食にならないようにする。
- ◆インスリン注射は、食事が摂れなくても自己判断で中止せず、必ず主治医に電話相談する。
- ◆経口血糖降下薬は、薬の種類や食事摂取量に応じて減量や休薬が必要な場合があるので、具体的な指示を主治医に電話確認する。
- ◆血糖測定器をお持ちの方は血糖値をこまめに測定し、主治医に報告する。

—こんな時には早めの受診に連絡を—

- ・全く食事が摂れない ・嘔吐、下痢などの消化器症状が強い ・高熱が続く
- ・胸痛や呼吸困難 ・高血糖が続く など

シックデイの時は早めに主治医に連絡して指示を受けることが大切です。上記の症状だけでなく、いつもと様子がおかしいと思ったら迷わず主治医や医療機関に連絡し、相談してください。発熱している際には発熱外来を受診し、新型コロナウイルスのPCR検査を受けるようにして下さい。

シックデイ時における食事の注意点 管理栄養士 細道美緒

シックデイ時には脱水とエネルギー不足への対策が必要となります。特に水分も食事も全く摂れない状態は避けるようにしましょう。ここではシックデイ時の食事のポイントをご紹介します。

◆ポイント① 脱水予防

まずは水分を摂取することです。特に水分の摂取目安量は1日1000~1500mlです。少し温めたお茶や水がおすすめです。また、食事が少ない場合にはエネルギーのあるスープやみそ汁で水分やミネラルをとるなど工夫が必要です。よくスポーツ飲料を飲む方がいますが、多くの商品に糖分が含まれています。どのくらい含まれているのか確認し、急激に多くの糖分を摂りすぎないように注意しましょう。

◆ポイント② エネルギーを摂取する

食事が取れないと、活動に必要なエネルギーが不足してしまいます。シックデイでは絶食状態にならないことが大切です。食欲がなくても、消化が良く、口当たりの良い炭水化物を中心に摂取しましょう。“おかゆ”や“うどん”などの炭水化物は速やかにエネルギーになります。

【シックデイ時におすすめのメニュー例】

●脱水予防には・・・



●エネルギーを摂るには・・・



★水分や食事をとることが困難な場合は早めに主治医に相談しましょう。

